

# アンケート調査報告書

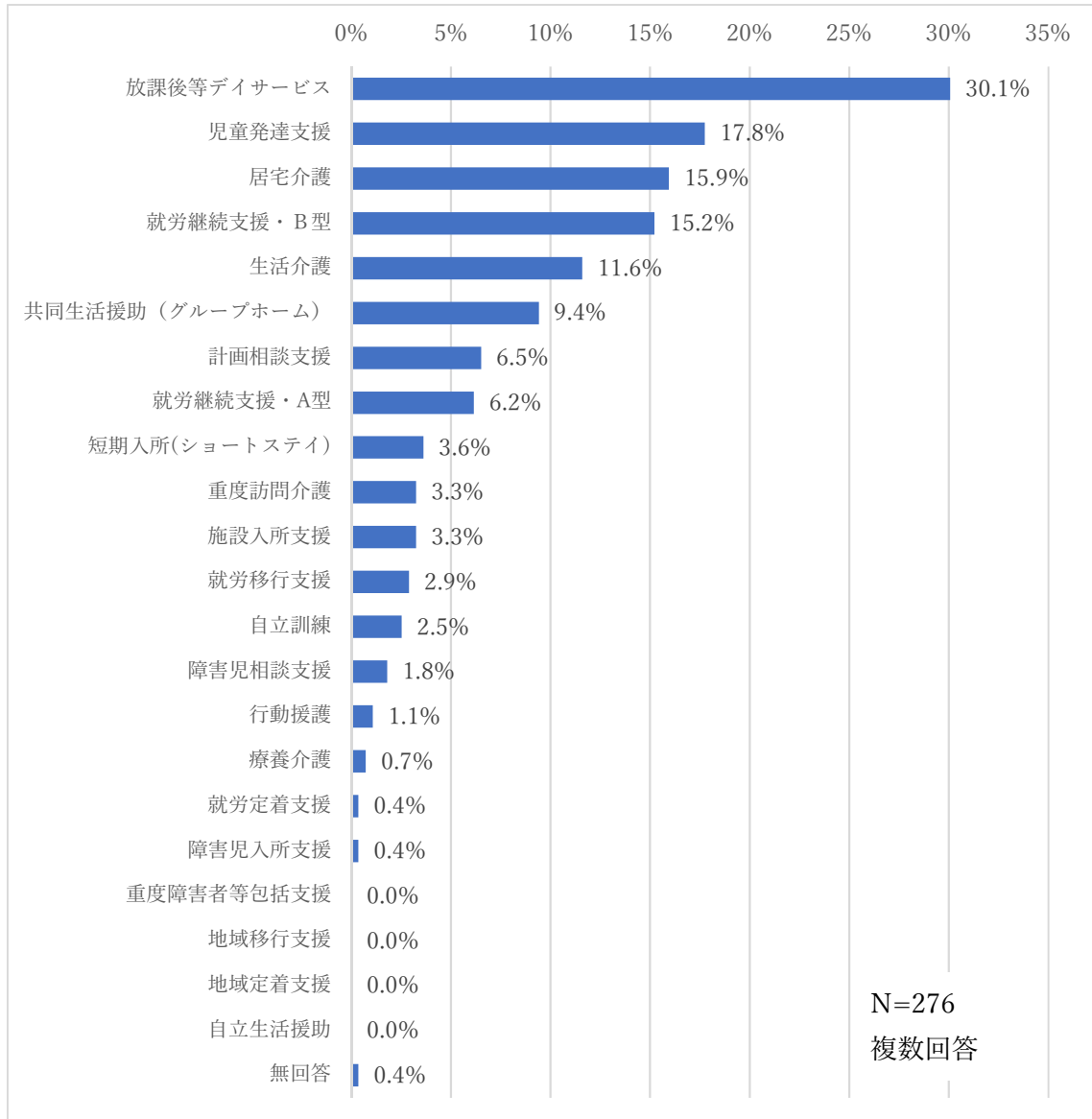
## 【障害福祉サービス事業所】

---

【A 貴事業所及び調査票ご記入者についてお聞きします】

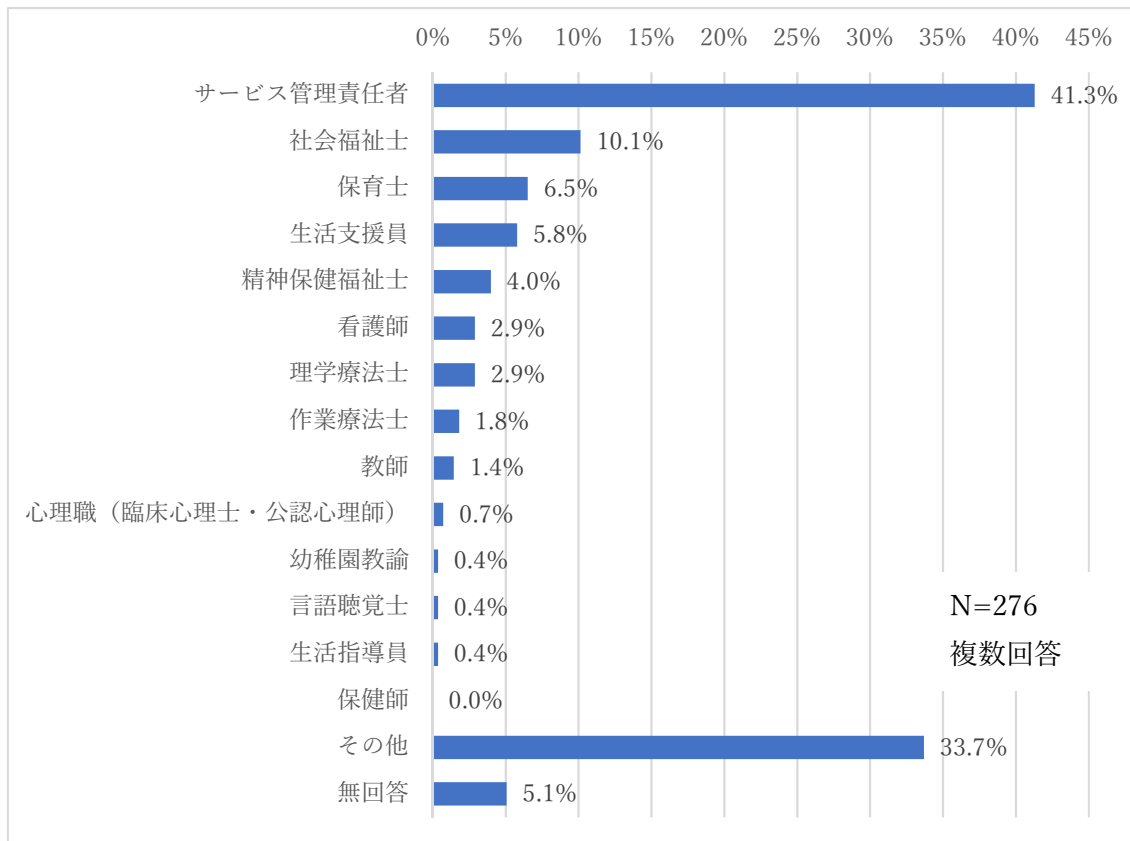
問1 貴事業所の実施事業について、お答えください。

実施事業は、「放課後等デイサービス」(30.1%)が最も多く、次いで「児童発達支援」(17.8%)、「居宅介護」(15.9%)となっている。



問 2 本調査票を記入されている方の職種と発達障害児者の支援に関わった経験年数について、お答えください。

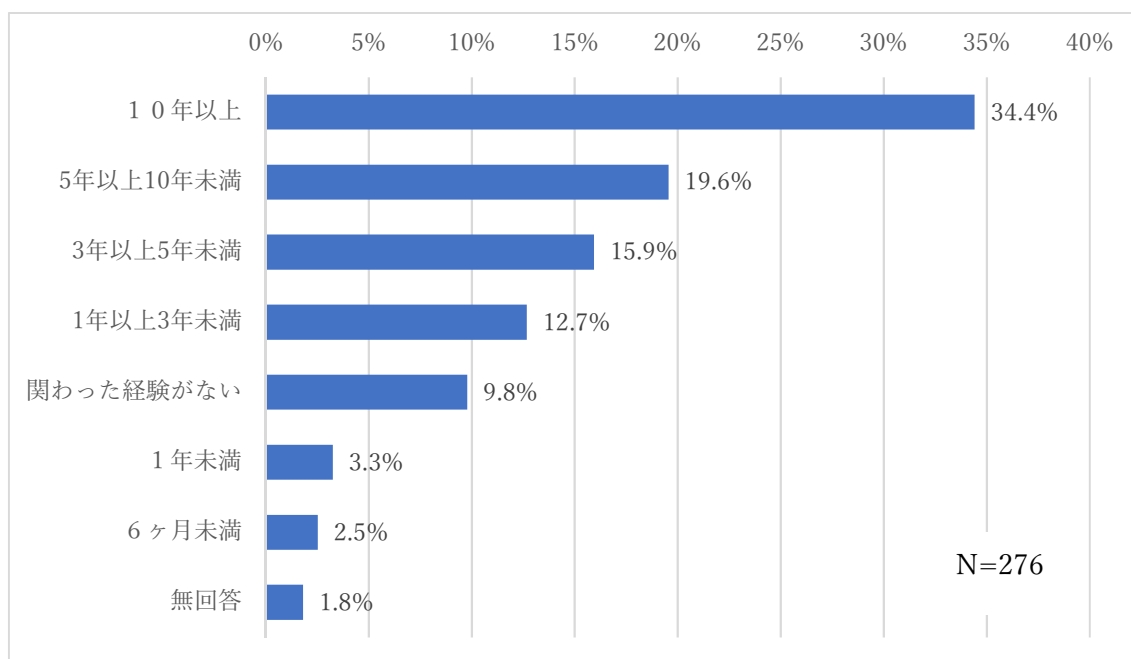
職種は、「サービス管理責任者」(41.3%) が最も多く、次いで「社会福祉士」(10.1%)、「保育士」(6.5%) となっている。



(その他)

管理者 (38)、児童指導員 (13)、児童発達支援管理責任者 (17)、介護福祉士 (9)、サービス提供責任者 (6)、相談支援専門員 (8)、職業指導員 (2)、施設長 (4)、介護支援専門員 (介護保険と併用) (1)、代表取締役・法人代表者 (3)、副施設長 (2)、世話人 (1)、統括主任 (1)

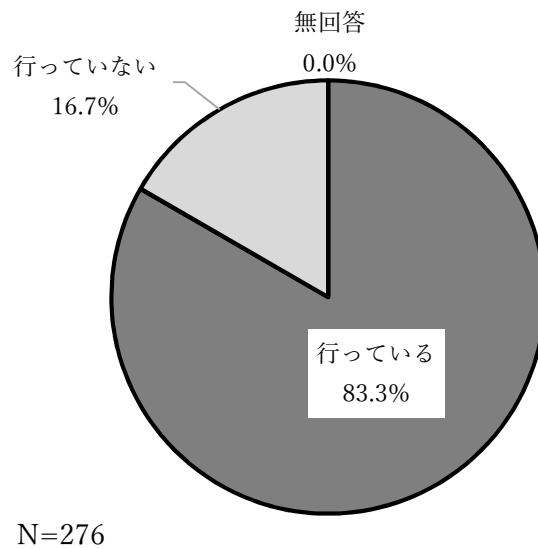
発達障害児者の支援に関わった経験年数は、「10年以上」(34.4%)が最も多く、次いで「5年以上10年未満」(19.6%)、「3年以上5年未満」(15.9%)となっている。



【B 発達障害児者への支援について伺います】

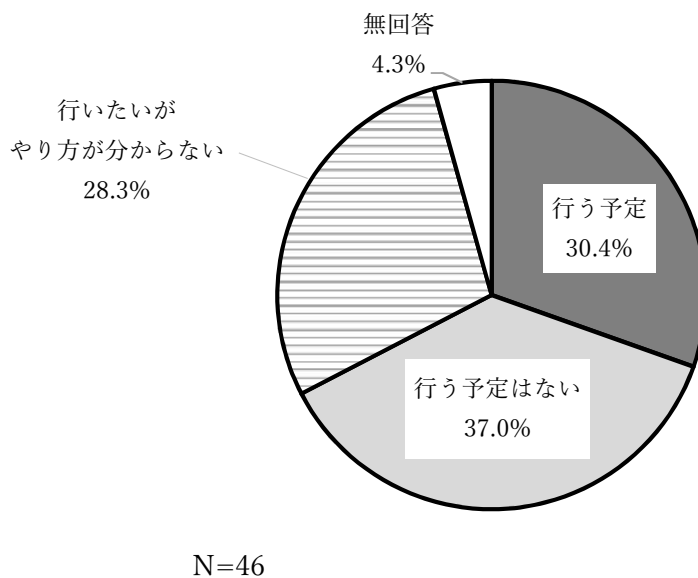
問3 あなたの部署では、発達障害児者への支援（相談を含む）を行っていますか。

発達障害児者への支援を行っているかについては、「行っている」（83.3%）、「行っていない」（16.7%）となっている。



副問3-1 問3で「支援を行っていない」と答えた方におたずねします。今後、あなたの部署では発達障害児者への支援を行う予定はありますか。

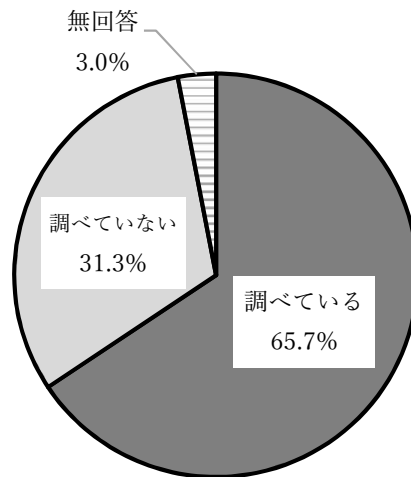
発達障害児者への支援を行う予定については、「行う予定」（30.4%）、「行う予定はない」（37.0%）、「行いたいやり方が分からない」（28.3%）となっている。



【C 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います（その① 特性の理解）】

問4 あなたの部署では、発達障害に伴う「感じ方（感覚）」や「周りのことへの理解の仕方」「自分の気持ちの表し方」など（以下、「障害特性」と記載）にどのような特徴があるか、専門職の人（医師、発達障害に関する専門機関の職員等）などが調べていますか。

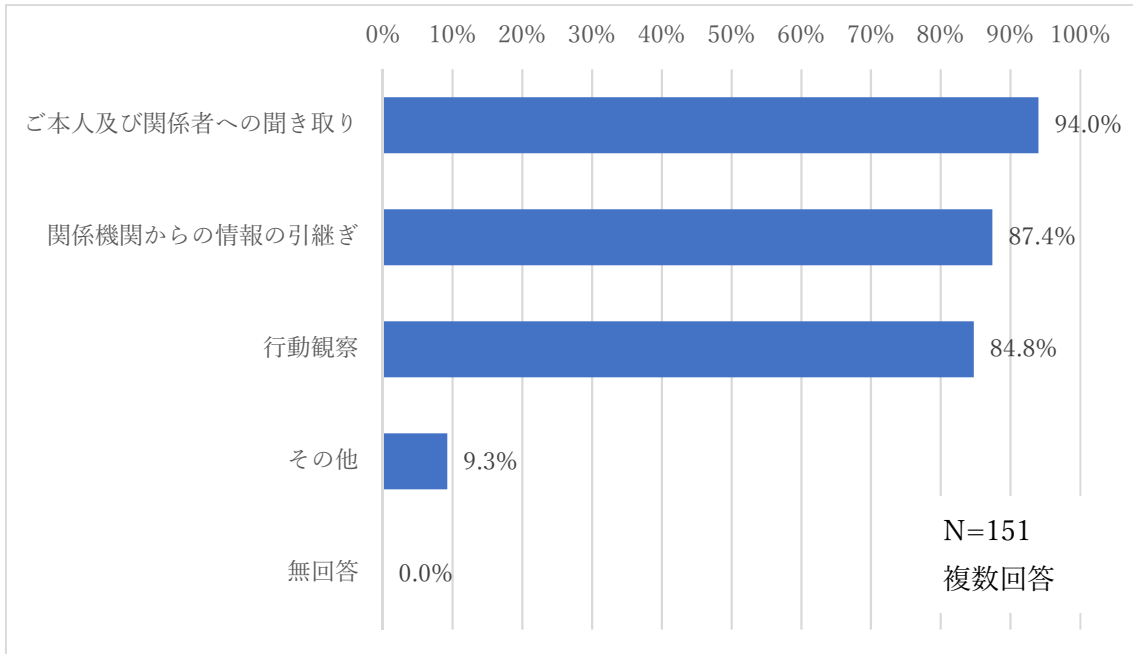
専門職の人が調べているかについては、「調べている」(65.7%)、「調べていない」(31.3%)となっている。



N=230

副問4-1 問4で「調べている」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を調べていますか。当てはまるものをすべて答えて下さい。

どのように障害特性を調べているかについては、「ご本人及び関係者への聞き取り」(94.0%)が最も多く、次いで「関係機関からの情報の引継ぎ」(87.4%)、「行動観察」(84.8%)となっている。

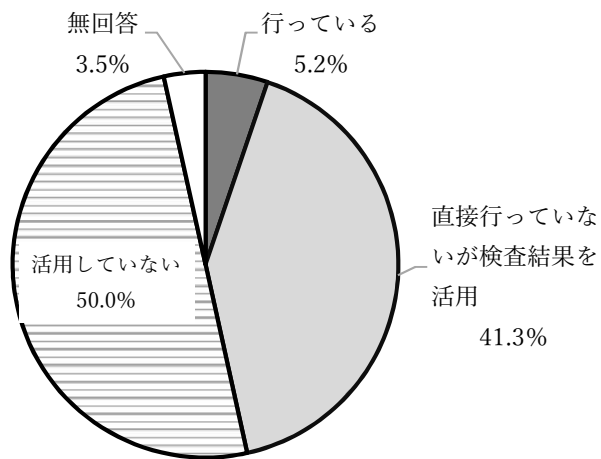


(その他)

- ・ WISC-IV 知能検査の実施
- ・ 心理担当職員による発達検査
- ・ 本、インターネット、SNS などから情報を収集 (5)
- ・ 保護者からの情報提供 (2)
- ・ 調べてるといふより、こちらが感じる違和感をベースにしています。
- ・ 勉強の時間を設けている。
- ・ 外部アドバイザー (学校心理士) によるアドバイス (S-M 社会生活能力検査含む)
- ・ 担当医からの情報提供
- ・ 研修会

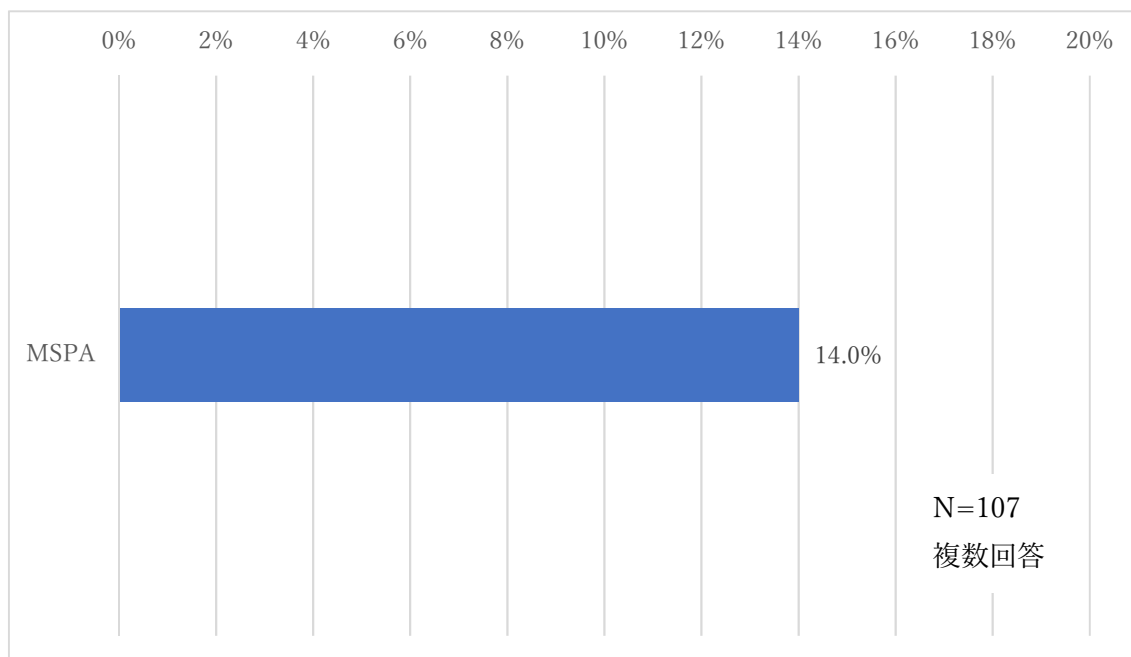
問5 あなたの部署では、発達障害について心理学的な検査を行い、支援に活用していますか。

心理学的な検査を行い、支援に活用しているかについては、「行っている」(5.2%)、「直接行っていないが検査結果を活用している」(41.3%)、「活用していない」(50.0%)となっている。



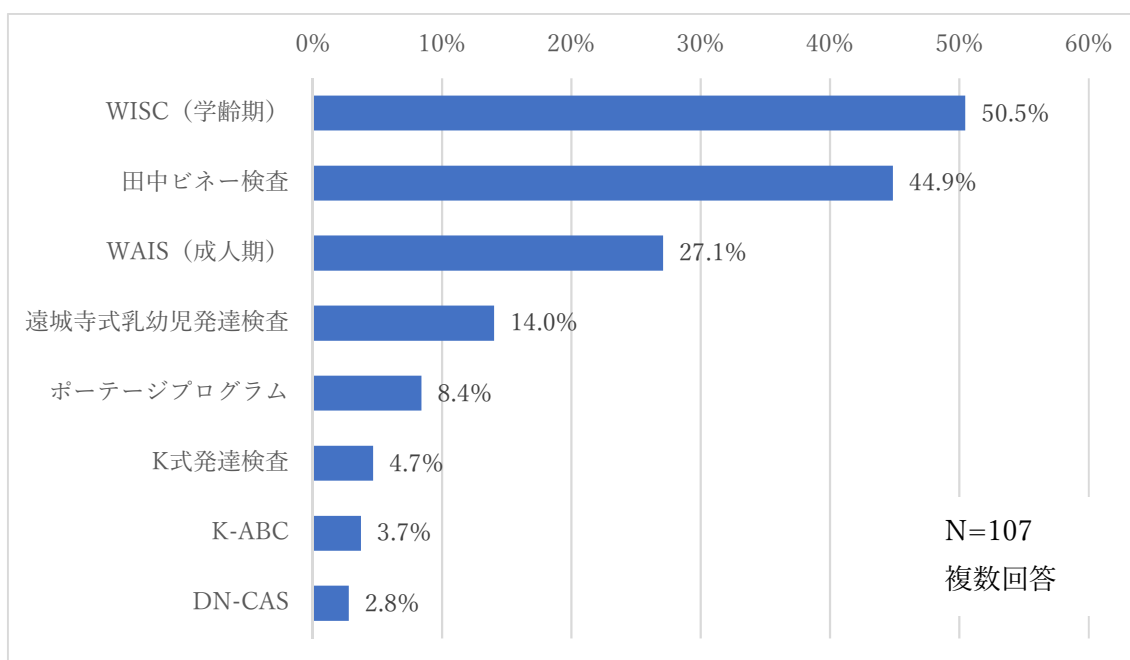
副問5-1 問5で「行っている」、「直接行っていないが検査結果を活用している」と答えた方におたずねします。どのような検査を活用していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

① 日常生活における困難と要支援度の評価

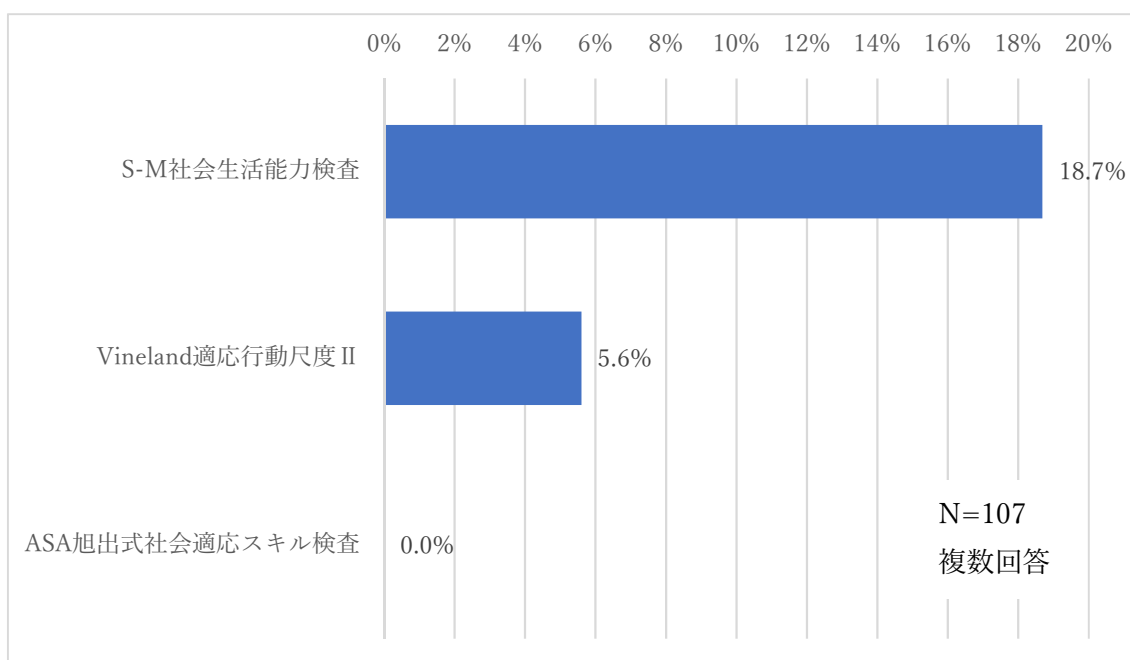




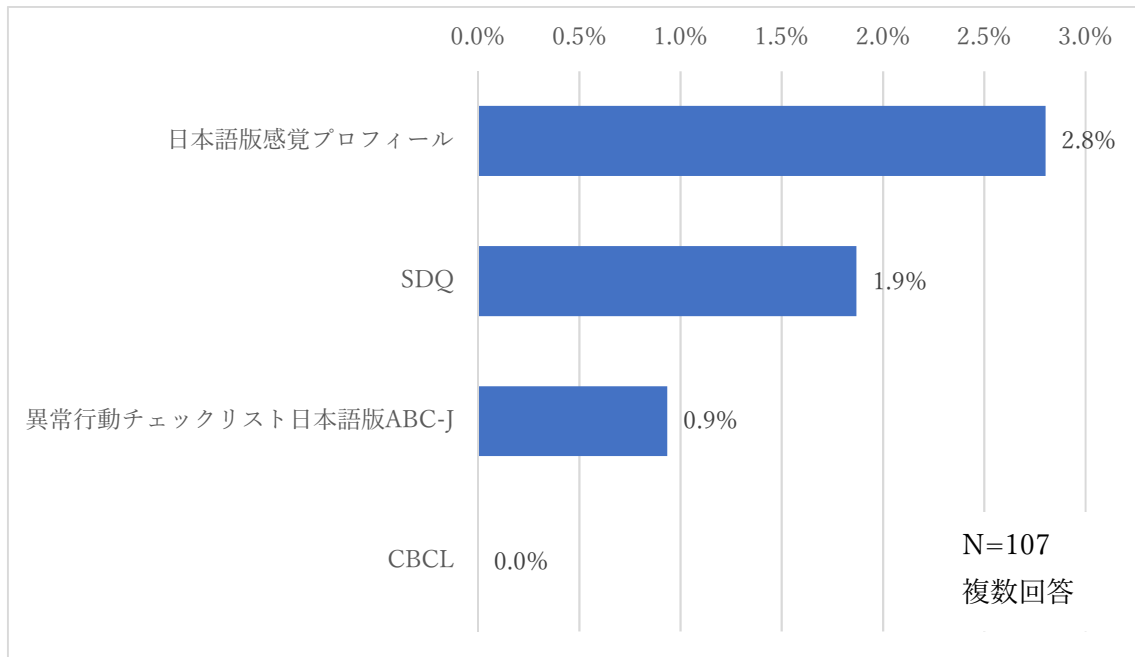
## ② 知能検査・発達検査



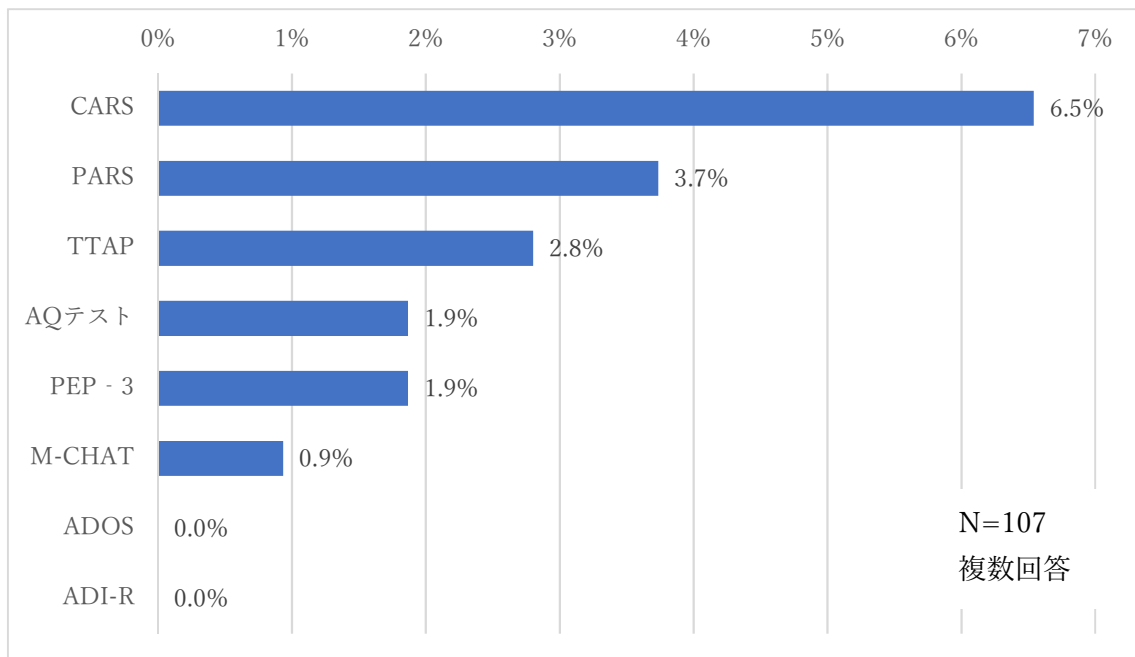
## ③ 適応行動（生活能力）のアセスメント



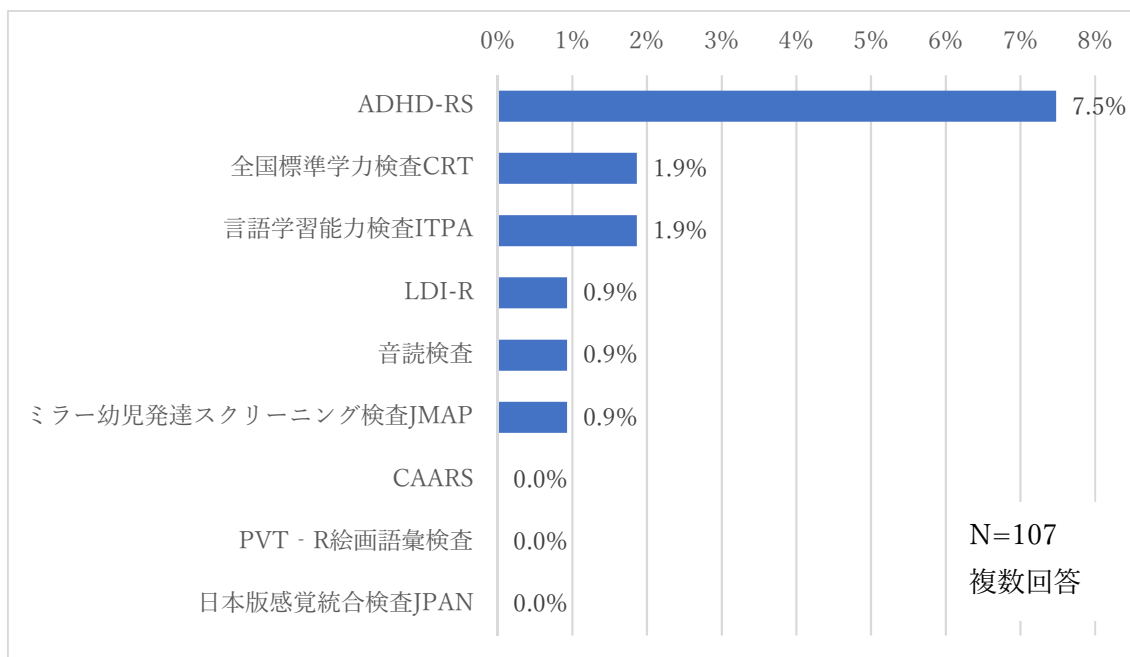
④ 情緒と行動のアセスメント



⑤ 自閉症スペクトラムのアセスメント



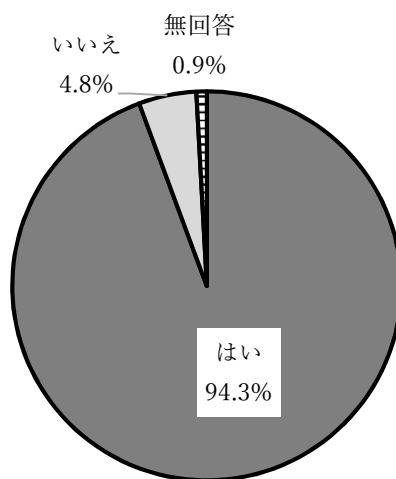
⑥ その他のアセスメント



【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います (その② 日常生活について)】

問6 あなたの部署では、発達障害のある人が日常生活を送る上で特に配慮が必要な障害特性について、具体的に把握していますか。

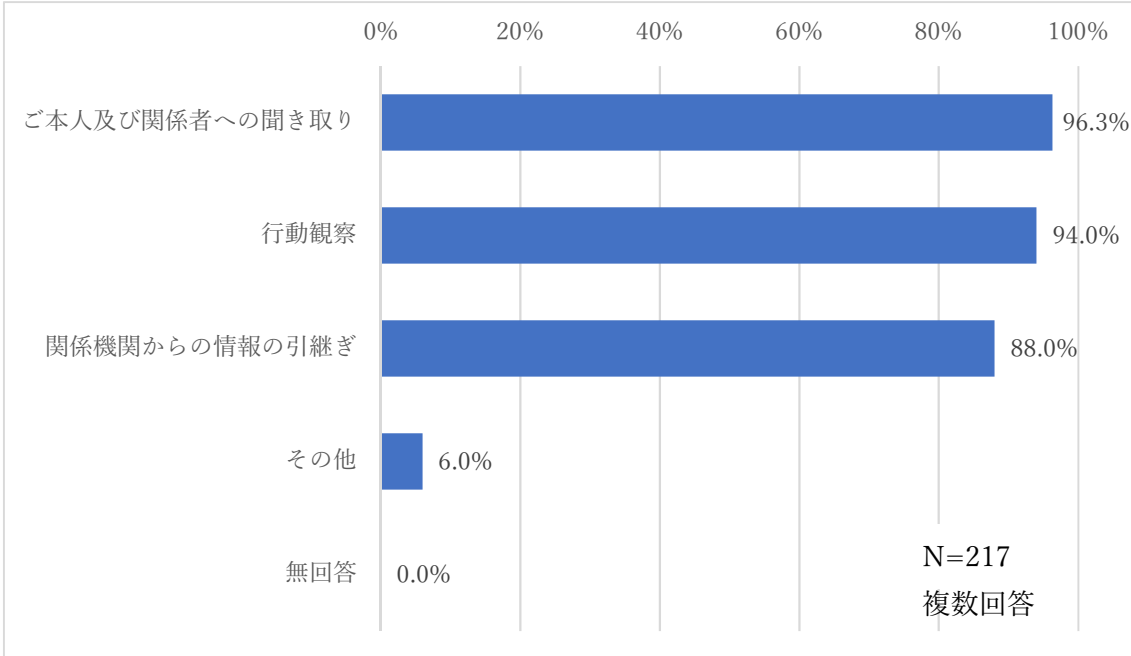
障害特性を把握しているかについては、「はい」(94.3%)、「いいえ」(4.8%)となっている。



N=230

副問 6-1 問6で「はい」と答えた方におたずねします。どのように障害特性を把握していますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのように障害特性を把握しているかについては、「ご本人及び関係者への聞き取り」(96.3%)が最も多く、次いで「行動観察」(94.0%)、「関係機関からの情報の引継ぎ」(88.0%)となっている。

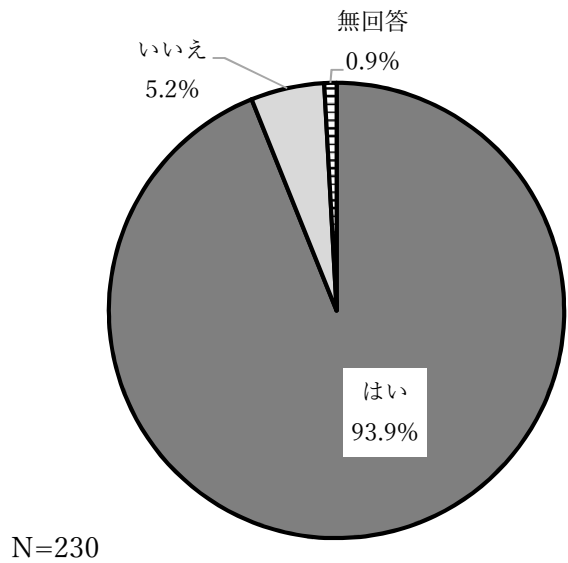


(その他)

- ・スタッフ間でのミーティング
- ・事業所独自のアセスメント教材を利用
- ・事業所内で策定したアセスメントツールの活用（フォーマルアセスメントに準じている）
- ・保護者からの情報提供（2）
- ・違和感です
- ・検査
- ・各特性(理解・表出・社会性・感覚等)のアセスメントの実施
- ・幕張ワークサンプル
- ・家族・関係者からの情報を基に支援
- ・障害特性を調べている
- ・研修等
- ・定期的な面談

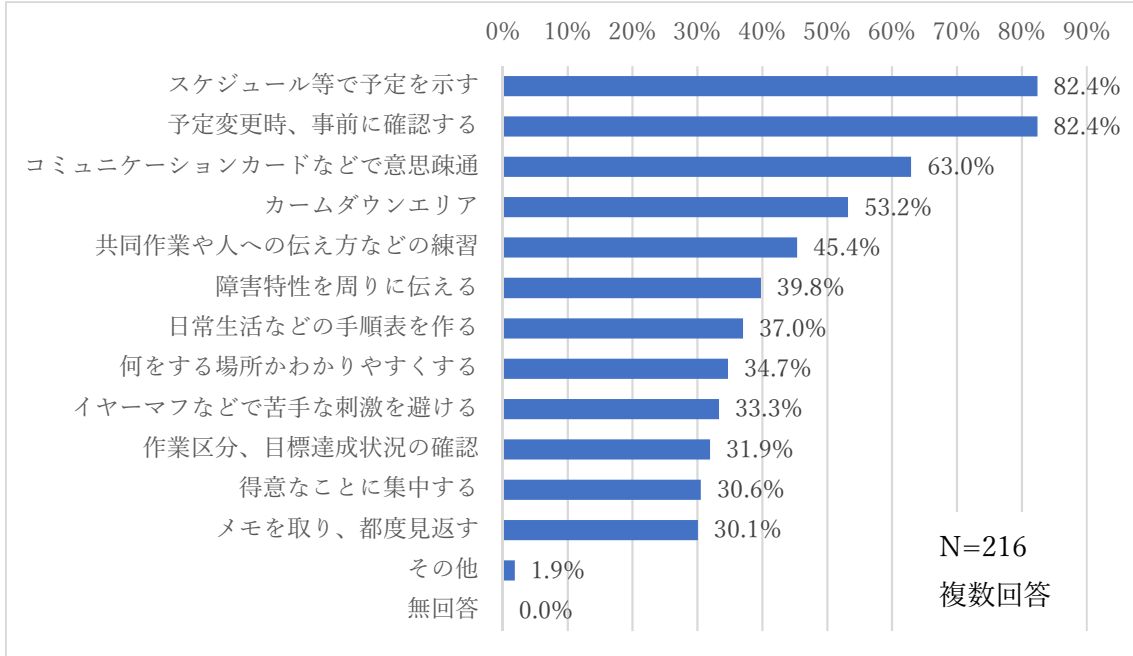
問7 あなたの部署では、発達障害のある人が日常生活を送る上で特に配慮が必要な障害特性に対して、何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(93.9%)、「いいえ」(5.2%)となっている。



副問7-1 問7で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような「手立て」を講じているかについては、「スケジュール等で予定を示す」・「予定変更時、事前に確認する」(82.4%)が最も多く、次いで「コミュニケーションカードなどで意思疎通」(63.0%)となっている。

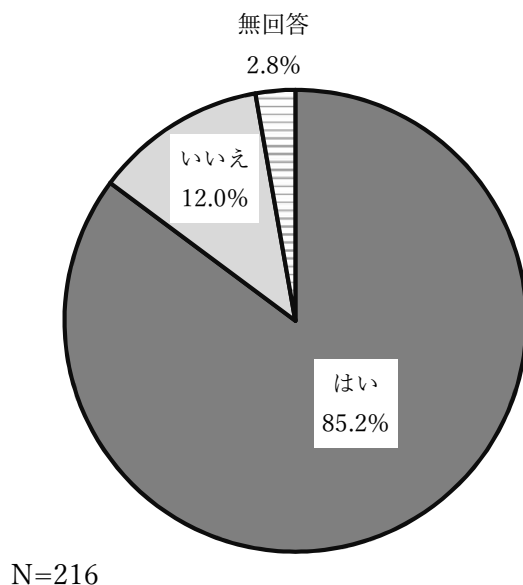


(その他)

- ・発達障害者は急な予定の変更を受け入れ難いので、できるだけ変更を前日に知らせる
- ・スケジュールに従ってメリハリをつける。
- ・支援環境が集団であり、個別でもあるので障害特性についても集団のバランスをとりつつ個別のプライバシーに配慮しながら支援を行っている。(職員に伝えるようにしているが他者の障害特性を面白がったり利用する事もあるので人間関係の様子観察と調整は行っている。)
- ・構造化と ABA をメインにしています。

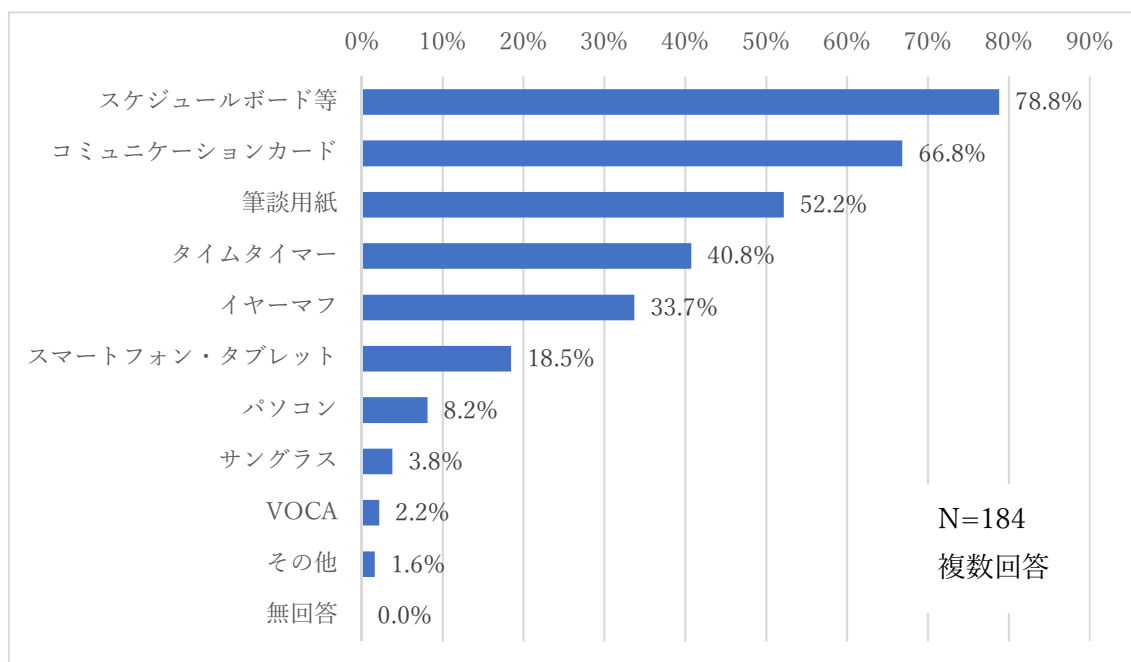
副問7-2 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(85.2%)、「いいえ」(12.0%)となっている。



副問7-2-1 副問7-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

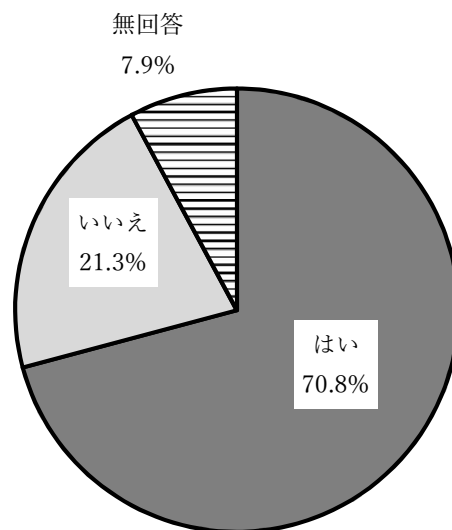
どのようなツールを使っているかについては、「スケジュールボード等」(78.8%)が最も多く、次いで「コミュニケーションカード」(66.8%)、「筆談用紙」(52.2%)となっている。



(その他) 個別に必要なツール、リマインダー、手話

副問7-3 問7で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることがありますか。

難しいと感じることがあるかについては、「はい」(70.8%)、「いいえ」(21.3%)となっている。

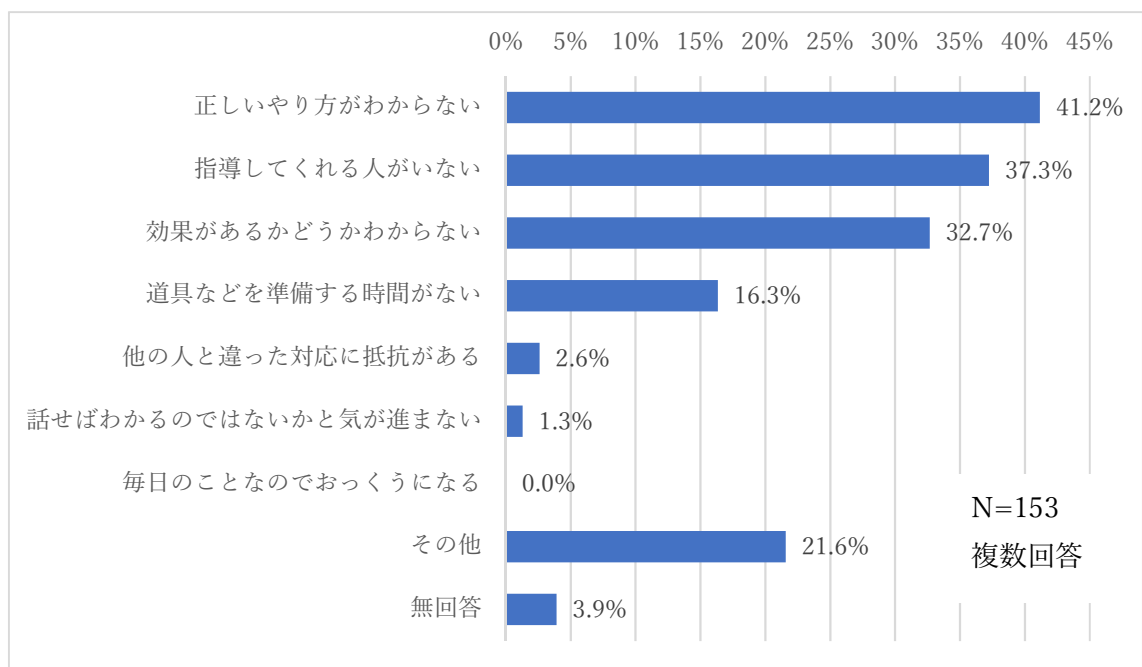


N=216



副問7-3-1 副問7-3で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「正しいやり方がわからない」(41.2%)が最も多く、次いで「指導してくれる人がいない」(37.3%)、「効果があるかどうかわからない」(32.7%)となっている。



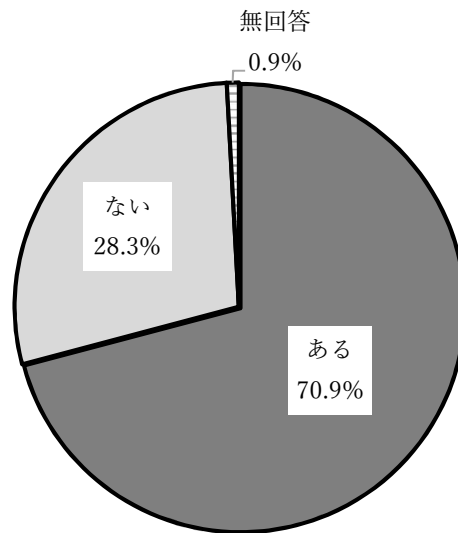
- ・常に迷うこと、悩むことはあります。個々に会う支援方法を常に模索しています
- ・特性の理解が困難な他利用者への説明
- ・職員間での一貫した支援の難しさ・・・
- ・こだわりが強いなどの特性があるが、日によってこだわる物が違ったりするので日によって対応等が変わることもあり難しいことがある。
- ・就学先など支援者間の支援における共通理解。
- ・カードなどを作成するのに時間がかかりかかることと、家庭への反映の為にも相当の時間を要する。また保護者が作成できるようになるといいと思い勉強会などをコロナ以前は行っていたが、保護者支援にもかなり時間を要する。
- ・利用者が意図的に無視したり（数日後になかった事にする。）一般的なルールを意図的に破る。
- ・それがその人に合っているのか考えるため
- ・保護者の希望により本人の特性に合った支援方法を選択できない場面がある
- ・見た目上ではいたって普通であるため、他者への理解、伝達が難しい。
- ・こちらが予期していないことにストレスを感じていることがあるので、オールラウンドにその事を訴えてくれるように、心にいつも準備しておくこと。
- ・個別の対応をする場合、他の利用者にも周知・理解してもらわなければならない
- ・一人一人の特徴によって、適切なカードを見つけるまでが試行錯誤している。
- ・本人の同意を得られない
- ・正しい支援を受けてこなかった成人域の方に視覚的構造化等を導入する時(自己的なルー

- ルや行動が確立しており、視覚的な情報等への注目に取りにくさがある)
- ・行動の変化には時間がかかると認識しているが、いつまで続けるのかの見極めが難しい。
  - ・最善の方法なのかは常に疑問を感じる。
  - ・周囲の理解不足による本人の孤立や行動の激化等を防ぐこと
  - ・統一した支援を提供すること
  - ・行動変化がないため、方法を変えて行うがどれが正しいのかわからないことがある。
  - ・支援に対して良い反応や行動が見られる場合もあるが、そうでない場合もあり、支援の難しさを感じる。また、服薬など医療的な措置が必要な場合もあり、放課後等デイだけでは支援の限界もある。
  - ・行動の変化に時間がかかる
  - ・放課後等デイサービスの児童があふれていて、きちんとした支援が出来ない事がある
  - ・手立てが有効な場合とそうでない場合もあり、トライアンドエラーの連続であるから
  - ・事業所内での手立てを講じて、事業所外での生活に適応できるよう誘導しているが、事業所外では手立てを行われないことの方が多くて適応し辛くなるケースもあること
  - ・一人一人が違うので、正解が分からない。(2)
  - ・利用者自身の体調や精神状態により、昨日は上手くいったが、今日は上手くいかないという事もある為。
  - ・就労後も職場で使う事が出来る手立てを考える事。「福祉施設だから可能」では通用しないため、「職場でも応用可能」な手立てを講じるように注意を払っている。
  - ・本人の特性が強いとき
  - ・日々、子ども達の様子が違い正解がない為、日々試行錯誤している。
  - ・相談支援という形の為、面談時のみの手立てとなり日中活動の場面で出来る部分と出来ない部分がある。
  - ・本人の特性がそれぞれ異なるので個別の環境整備が困難（物理的に）

【D 日常生活を支える「基本の手立て」について伺います（その③ 支援体制について）】

問8 あなたの部署では、発達障害のある人が日常生活を送るうえで必要な手立てについて、医療・福祉・教育・雇用（労働）などの身近な支援者と一緒に取り組んだことがありますか。

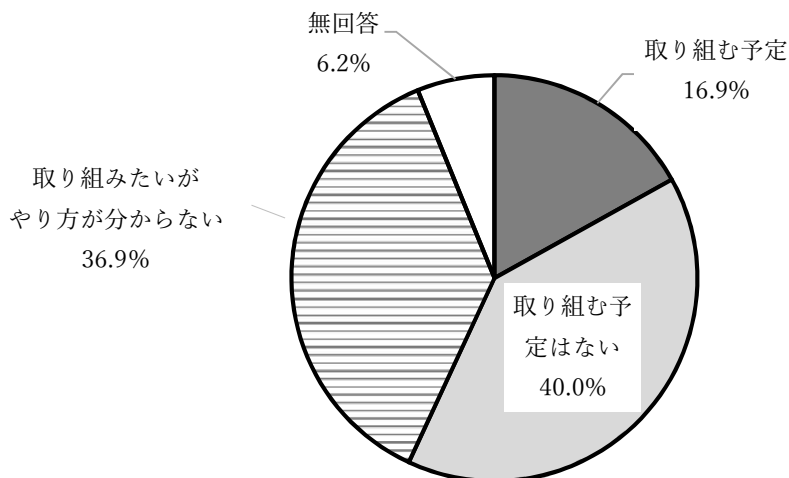
身近な支援者と一緒に取り組んだことがあるかについては、「ある」（70.9%）、「ない」（28.3%）となっている。



N=230

副問8-1 問8で「ない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものを1つ選んでください。

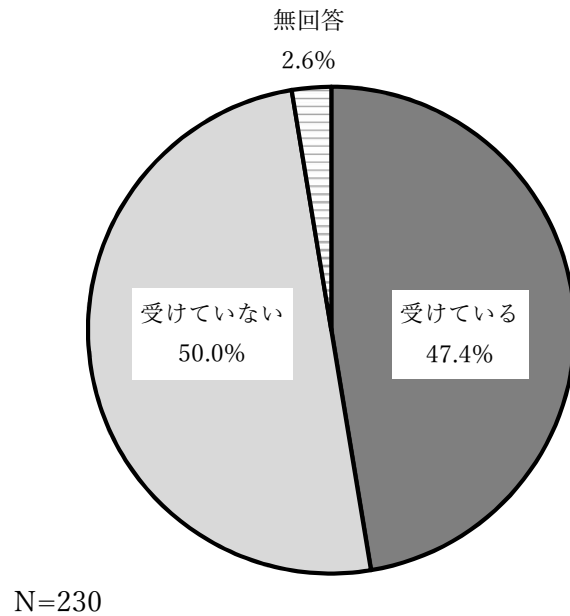
今後の予定については、「取り組む予定」（16.9%）、「取り組む予定はない」（40.0%）、「取り組みたいがやり方が分からない」（36.9%）となっている。



N=65

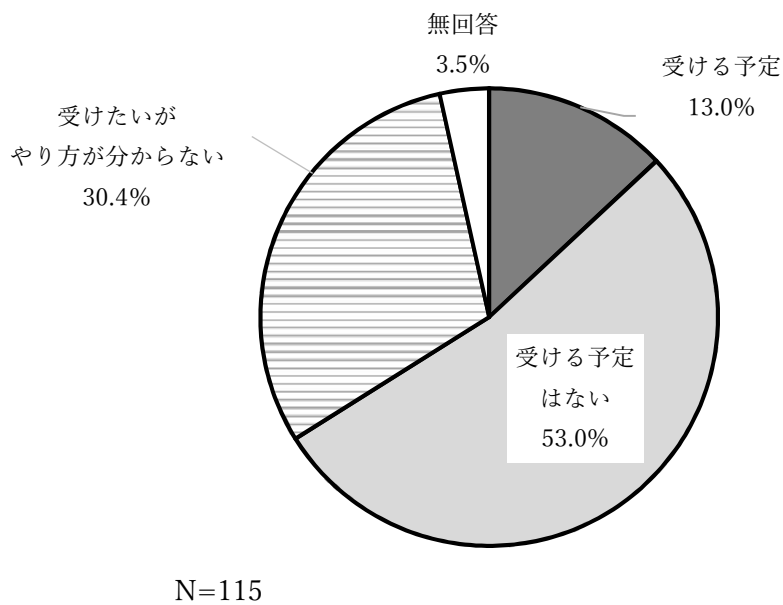
問9 専門機関（病院、発達障害者支援センターつばさ、障害者基幹相談支援センター、子ども総合センター等）から、助言や指導を受けていますか。

助言や指導を受けているかについては、「受けている」(47.4%)、「受けていない」(50.0%)となっている。



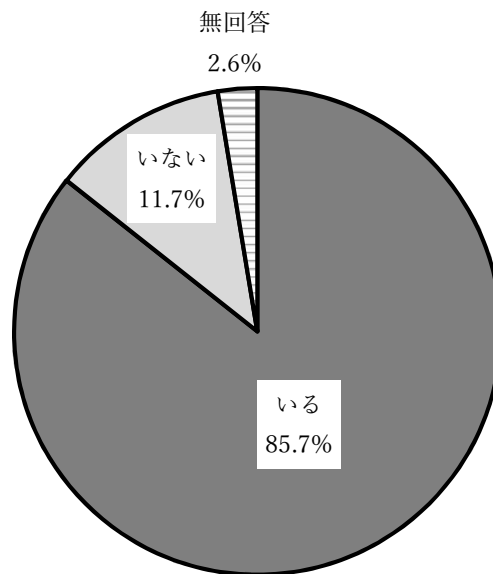
副問9-1 問9で「受けていない」と答えた方におたずねします。今後の予定について、当てはまるものを1つ選んでください。

今後の予定については、「受ける予定」(13.0%)、「受ける予定はない」(53.0%)、「受けたいがやり方が分からない」(30.4%)となっている。



問10 発達障害のある人を支援する上で、困った時に頼れる相談相手はいますか。

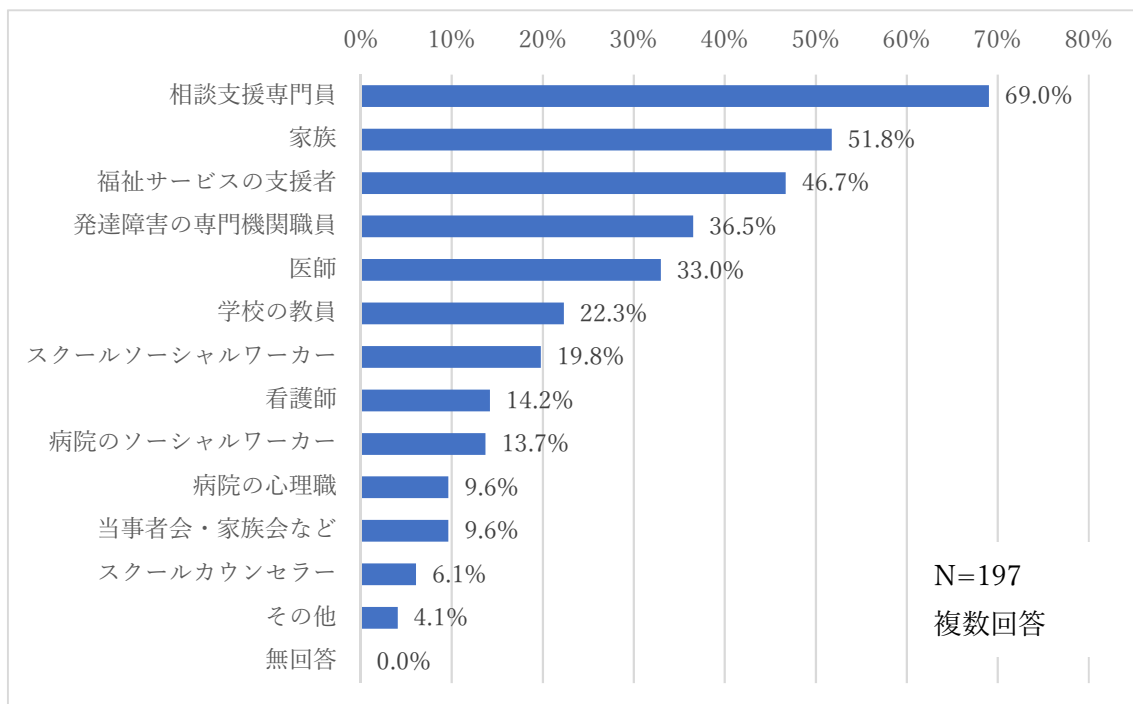
頼れる相談相手がいるかについては、「いる」(85.7%)、「いない」(11.7%)となっている。



N=230

副問10-1 問10で「いる」と答えた方におたずねします。主な相談相手は誰ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

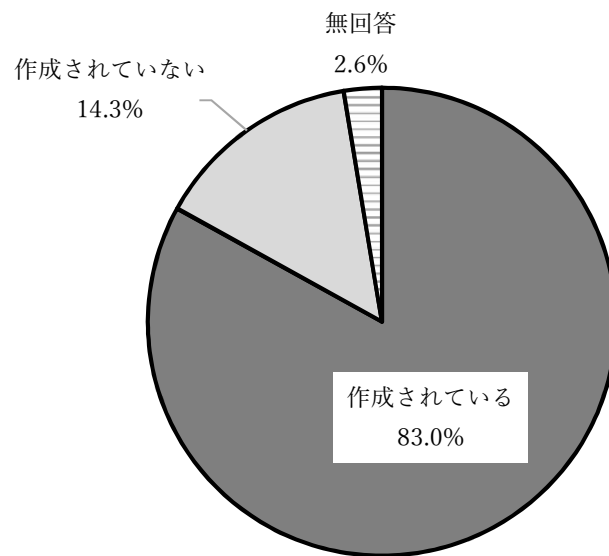
相談相手については、「相談支援専門員」(69.0%)が最も多く、次いで「家族」(51.8%)、「福祉サービスの支援者」(46.7%)となっている。



(その他) コンサルの方、学校心理士、当事務所職員や上司(2)、他県在籍を含めた専門家、フランチャイズ本部の顧問、同法人内の他事業所

問 1 1 あなたの部署では、発達障害のある人を支援するための個別の支援計画は作成されていますか。

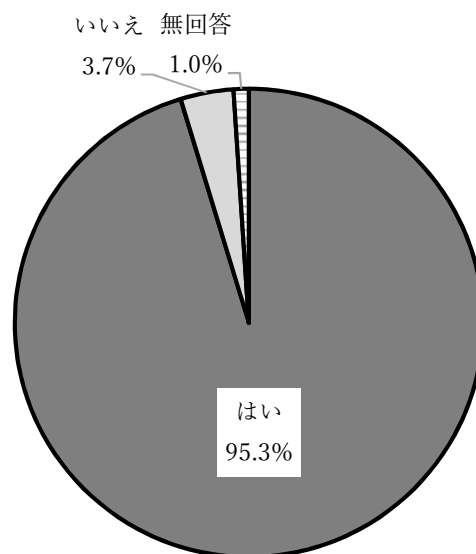
支援計画を作成しているかについては、「作成されている」(83.0%)、「作成されていない」(14.3%)となっている。



N=230

副問 1 1 - 1 問 1 1 で「作成されている」と答えた方におたずねします。作成された計画について、定期的に取り組みの結果を振り返り、その成果や課題を踏まえて内容の見直しがなされていますか。(PDCA サイクル)

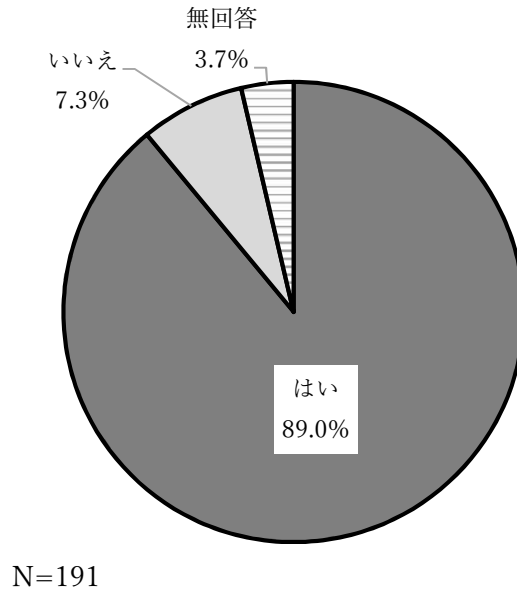
成果や課題を踏まえて内容の見直しをしているかについては、「はい」(95.3%)、「いいえ」(3.7%)となっている。



N=191

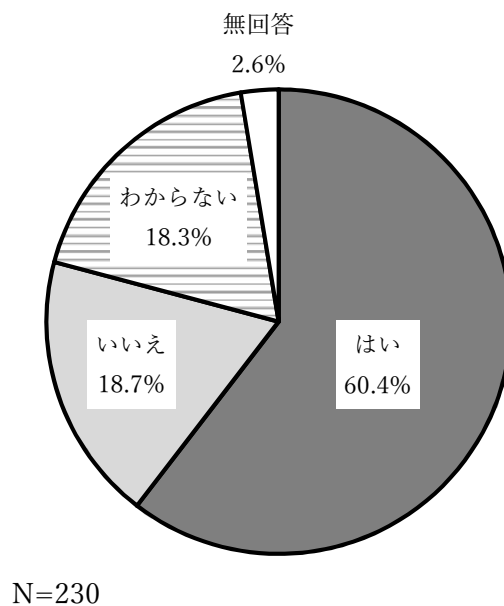
副問 1 1-2 問 1 1で「作成されている」と答えた方におたずねします。ご本人やそのご家族は、ご自身の支援計画の作成やその見直し（PDCA サイクル）作業に参加して、意見や要望を直接伝えていますか。

意見や要望を直接伝えているかについては、「はい」（89.0%）、「いいえ」（7.3%）となっている。



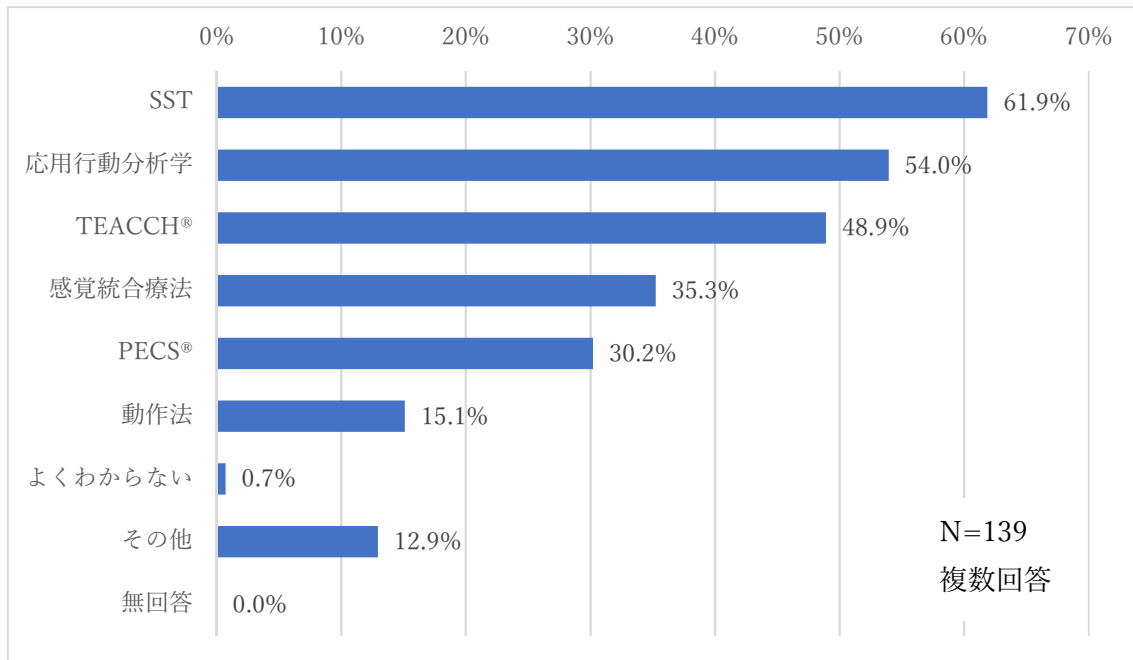
問 1 2 あなたの部署では、発達障害のある人の支援に専門的な手法を一部でも取り入れていますか。

専門的な手法を取り入れているかについては、「はい」（60.4%）、「いいえ」（18.7%）、「わからない」（18.3%）となっている。



副問1 2-1 問1 2で「はい」と答えた方におたずねします。どのような手法を取り入れていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような手法を取り入れているかについては、「SST」(61.9%)が最も多く、次いで「応用行動分析学」(54.0%)、「TEACCH®」(48.9%)となっている。



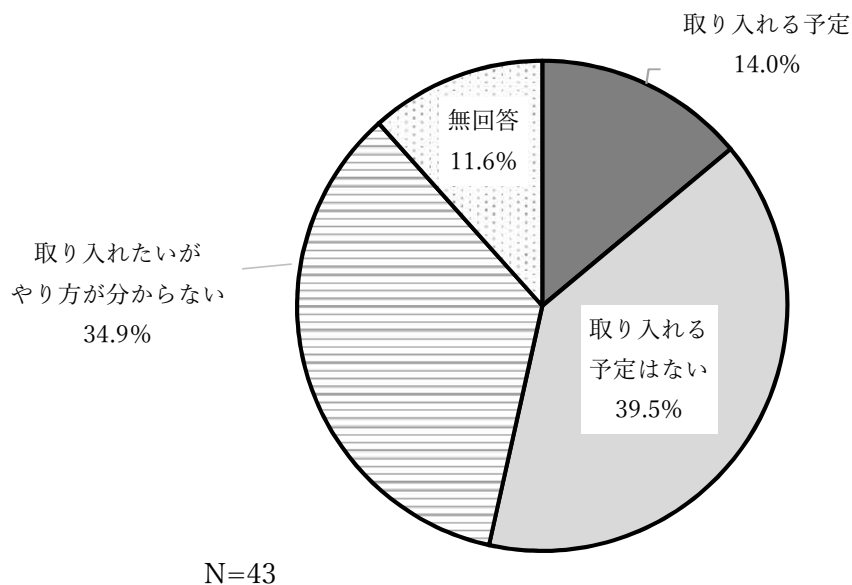
(その他)

- ・言語療法 (2)
- ・認知神経リハビリテーション (4)
- ・ビジョントレーニング (2)
- ・音楽療法、リズム遊び (2)
- ・DCD 運動機能評価 (2)
- ・Co-op アプローチ
- ・護道
- ・O J T
- ・TEACCH、ABA、PECS、感覚統合療法を活動の中で必要時行っているが、これが無いと理解できないとまではない児童が多い。
- ・目標として、午前中は歩行訓練を行っている。体格・動き・歩き方・速さ・利用者同士の関係性などを話し合い、コースを分け一般の歩道を利用し行っている。
- ・PT.OT.ST セラピストによる個別リハビリを行っている。
- ・手話言語を教えている
- ・定期的な面談を行い援助関係を形成している



副問1 2-2 問1 2で「いいえ」と答えた方におたずねします。今後の予定について当てはまるものを1つ選んでください。

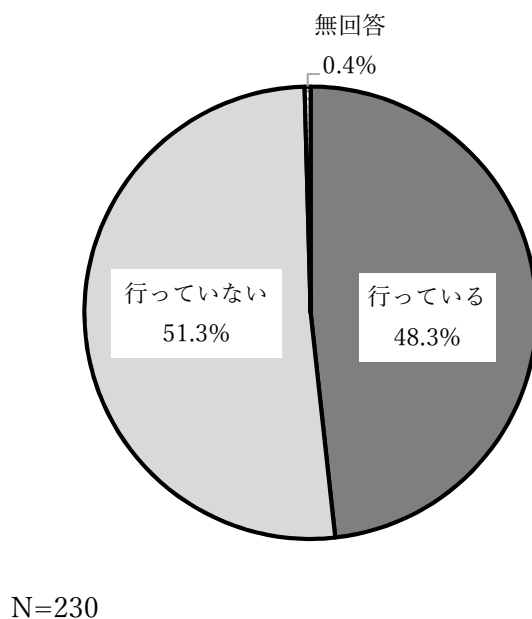
今後の予定については、「取り入れる予定」(14.0%)、「取り入れる予定はない」(39.5%)「取り入れたいがやり方が分からない」(34.9%)となっている。



【E 強度行動障害のある人への支援について伺います (その① 日頃の対応について)】

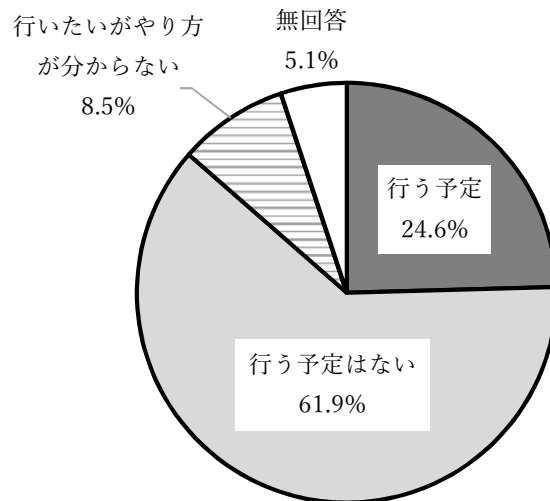
問1 3 あなたの部署では、強度行動障害のある人への支援(相談を含む)を行っていますか。

強度行動障害のある人への支援を行っているかについては、「行っている」(48.3%)、「行っていない」(51.3%)となっている。



副問13-1 問13で「支援を行っていない」と答えた方におたずねします。今後、支援を行う予定はありますか。

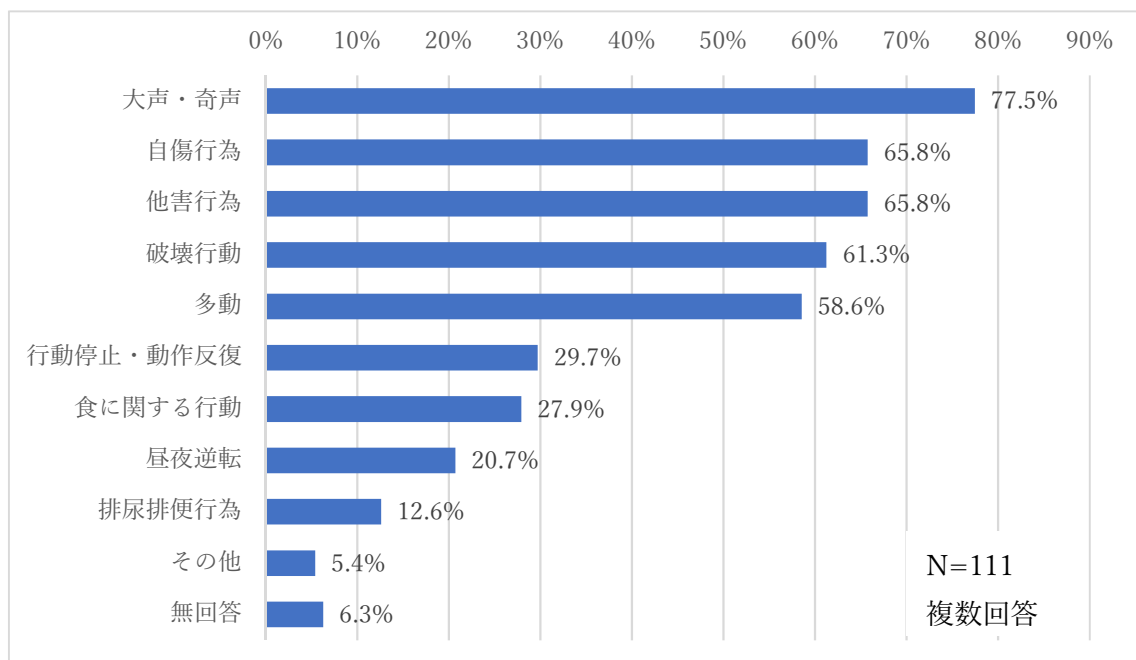
今後、支援を行う予定があるかについては、「行う予定」(24.6%)、「行う予定はない」(61.9%)、「行いたいやり方が分からない」(8.5%)となっている。



N=118

問14 強度行動障害のある人を支援するにあたり、障害特性があるために起きる行動で困っていることは何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

行動で困っていることについては、「大声・奇声」(77.5%)が最も多く、次いで「自傷行為」・「他害行為」(65.8%)となっている。

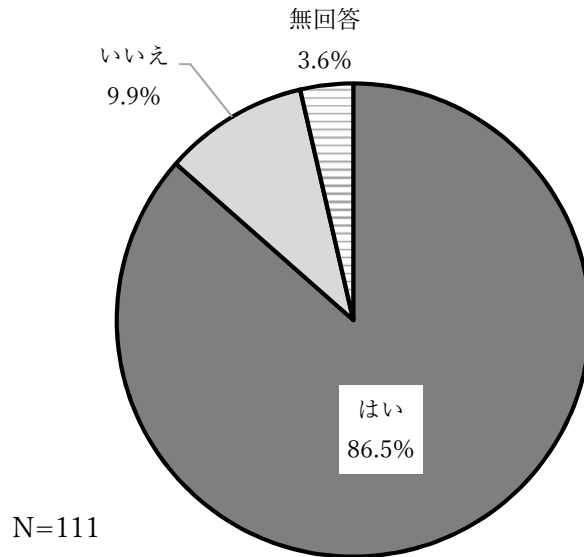


(その他)

感覚過敏、強いこだわり、対象者がいない、アルコール使用など、嘔吐、選択肢以外の強度行動障害のスコア表に当てはまる内容等、陰部を頻回に触る・露出する、異性の支援者に抱きつく・触る

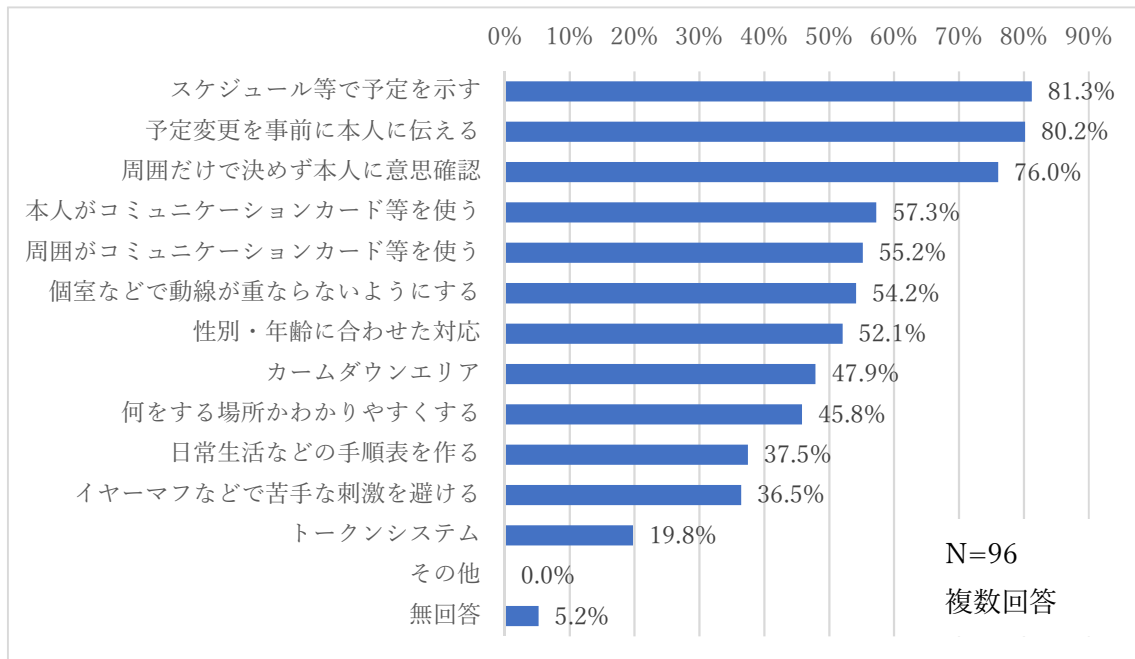
問15 あなたの部署では、強度行動障害のある人の日常生活を支えるために、特に配慮が必要な障害特性に対して何らかの「手立て」を行っていますか。

何らかの「手立て」を行っているかについては、「はい」(86.5%)、「いいえ」(9.9%)となっている。



副問15-1 問15で「はい」と答えた方におたずねします。具体的にどのような「手立て」を講じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

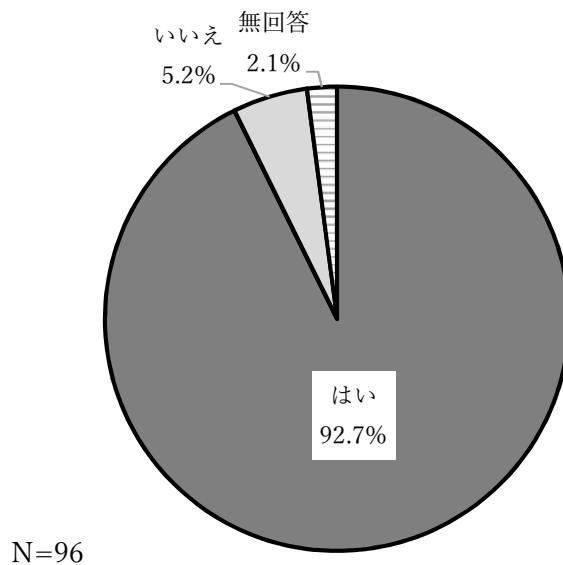
どのような「手立て」を講じているかについては、「スケジュール等で予定を示す」(81.3%)が最も多く、次いで「予定変更を事前に本人に伝える」(80.2%)、「周囲だけで決めず本人に意思確認」(76.0%)となっている。



(その他)  
支援員がマンツーマンで対応している

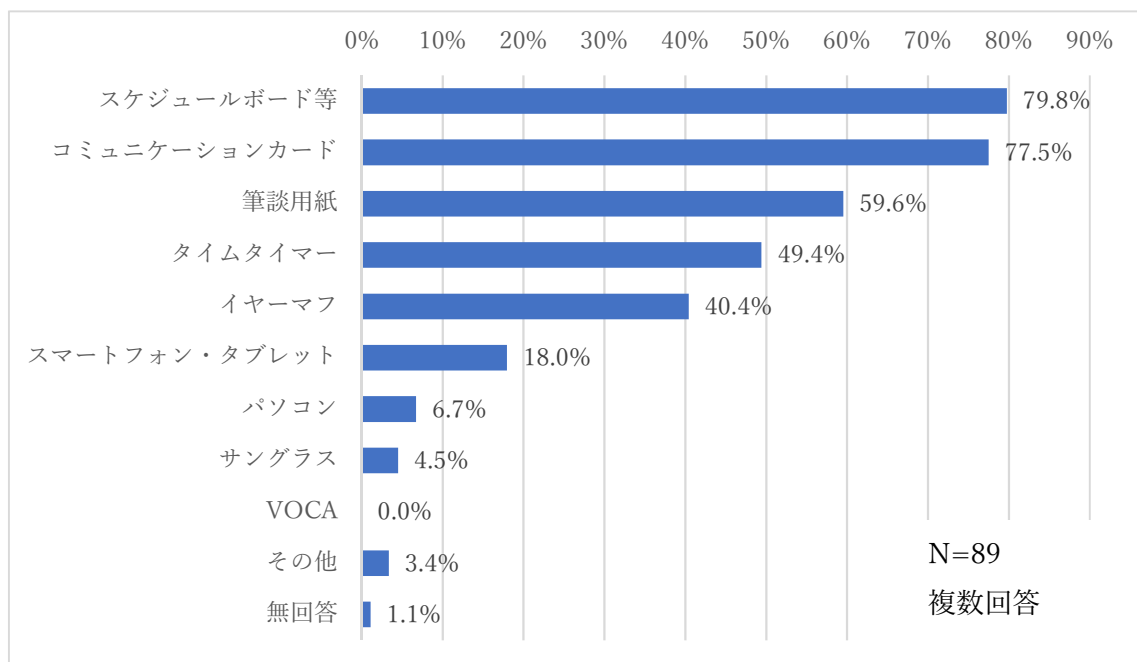
副問15-2 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活上の「手立て」を講じるにあたり、ツール（道具や用紙など）を使っていますか。

ツールを使っているかについては、「はい」(92.7%)、「いいえ」(5.2%)となっている。



副問15-2-1 副問15-2で「はい」と答えた方におたずねします。主にどのようなツールを使っていますか。ご本人と一緒に使うもの、またはご本人が自分で使うものについて、当てはまるものをすべて選んでください。

どのようなツールを使っているかについては、「スケジュールボード等」(79.8%)が最も多く、次いで「コミュニケーションカード」(77.5%)、「筆談用紙」(59.6%)となっている。

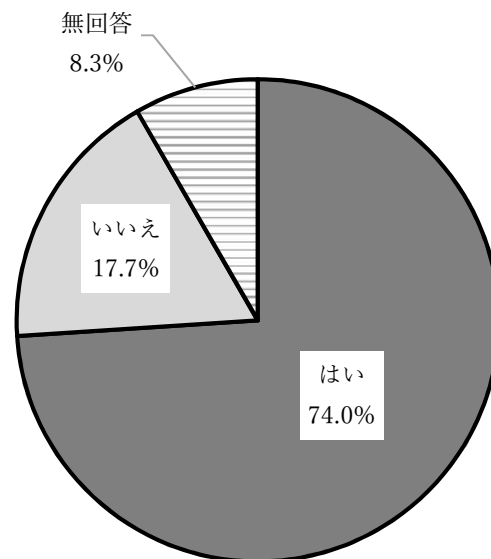


(その他)

- ・ぬいぐるみ (カームダウン目的)
- ・音の出る絵本や CD ラジカセ等を用いて、本人の興味を移せるようにしている。

副問15-3 問15で「はい」と答えた方におたずねします。日常生活の「手立て」を講じるうえで、難しいと感じることはありますか。

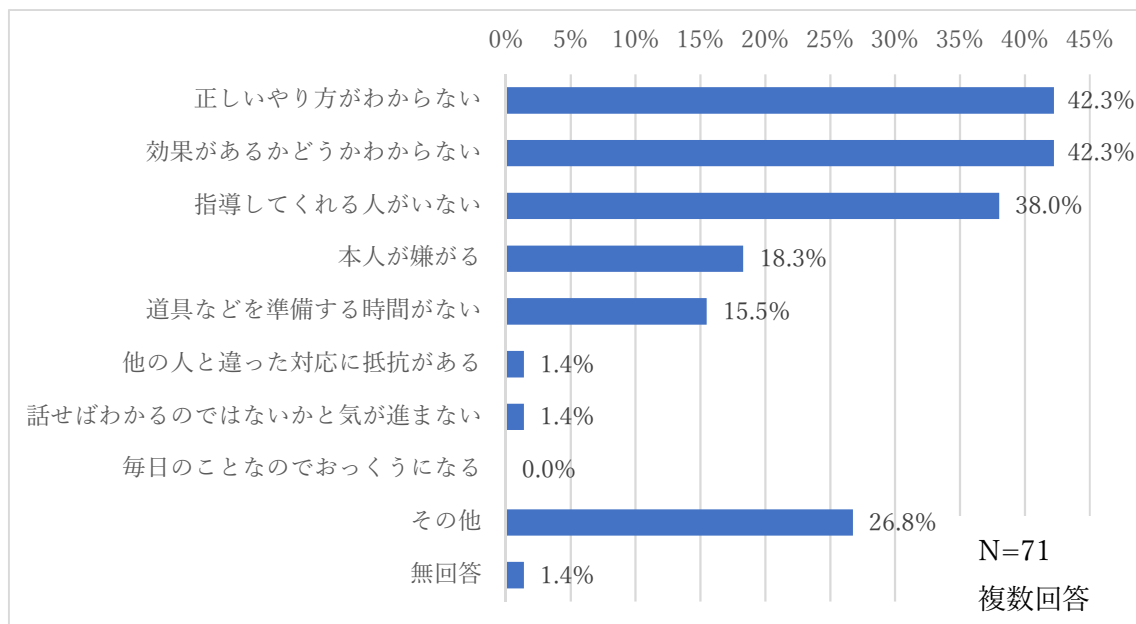
難しいと感じることがあるかについては、「はい」(74.0%)、「いいえ」(17.7%)となっている。



N=96

副問 1 5-3-1 副問 1 5-3 で「はい」と答えた方におたずねします。どのようなことに難しさを感じますか。当てはまるものを3つまで選んでください。

どのようなことに難しさを感じるかについては、「正しいやり方がわからない」・「効果があるかどうかわからない」(42.3%)が最も多く、次いで「指導してくれる人がいない」(38.0%)となっている。



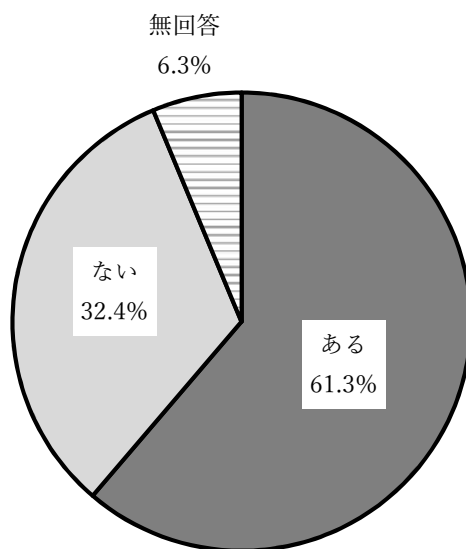
(その他)

- ・ 人員の不足
- ・ 職員間での一貫した支援の難しさ・・・
- ・ 緊急時の対応。
- ・ 一般的なルールを利用者が意図的に無視したり、お互いに話し合って決めた内容を数日後になかった事にする。
- ・ その方法が合っているか考えるため。
- ・ 本人の障害特性に合ったツールの仕様を保護者が認めてくれない。
- ・ 対象者の成長度合いによって、写真・声かけ・スケジュール提示など組み合わせが適切であるかどうかわからなくなる場面がある。
- ・ 障害特性に配慮した正しい支援を受けてこなかった成人域の方への視覚的構造化等の導入
- ・ 周囲の理解不足
- ・ 毎日の変化に対応している
- ・ 支援に対して良い反応や行動がある場面もあるが、そうでない場面もあり、難しさは感じている。また、服薬など医療機関にしかできないこともあり、支援の限界も感じる
- ・ 本人の状態に波があり、強い自傷・他傷行為が出た際にすぐに解決できないことが原因であった場合や、原因がはっきりしない場合には難しく感じる。
- ・ 本人の気分や状態によって最適な方法が変化するため、対応が間に合わないことがある。
- ・ うまく行かないことのほうが多く、トライアンドエラーの繰り返しだから
- ・ その日によって調子が良かったり悪かったりする。
- ・ 利用者のその日の体調や精神面に大きく左右される。
- ・ 相談支援以外の場面での支援内容が不明な時がある。

【E 強度行動障害のある人への支援について伺います。(その② パニックへの対応について)】

問16 強度行動障害のある人の状態が悪化して、危機的な状況（パニック）になったときのことを伺います。過去1年間に、ご本人が危機的な状況（パニック）になったことがありますか。

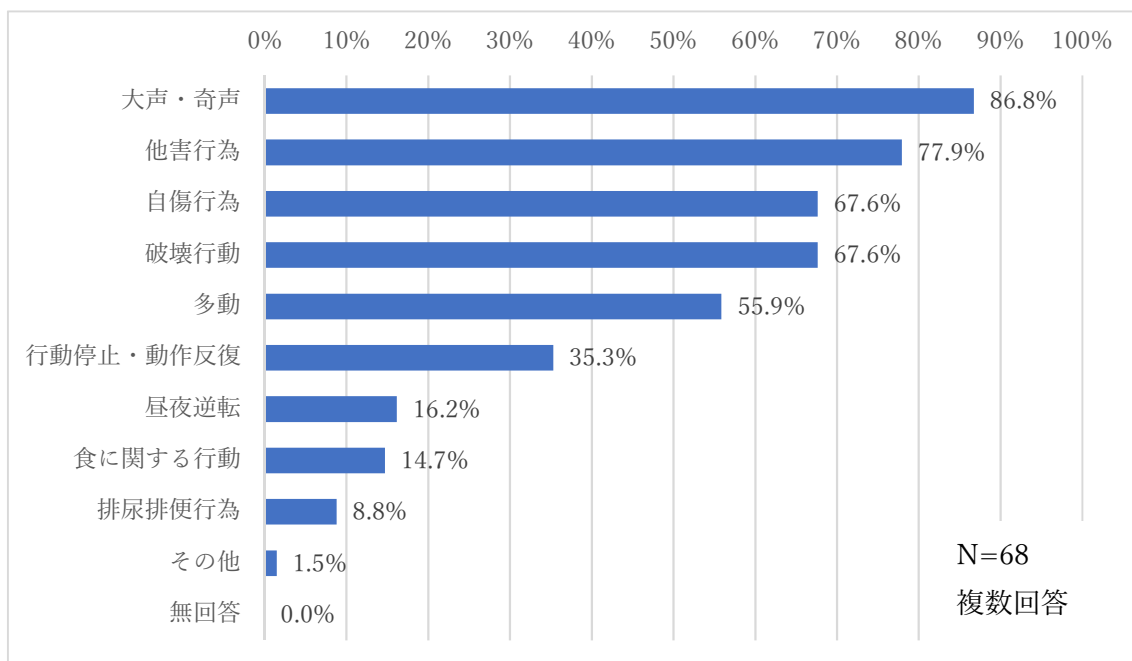
過去1年間に、危機的な状況（パニック）になったことがあるかについては、「ある」（61.3%）、「ない」（32.4%）となっている。



N=111

副問16-1 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の状態が悪化したとき、具体的にどのような状態がより激しくなりましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

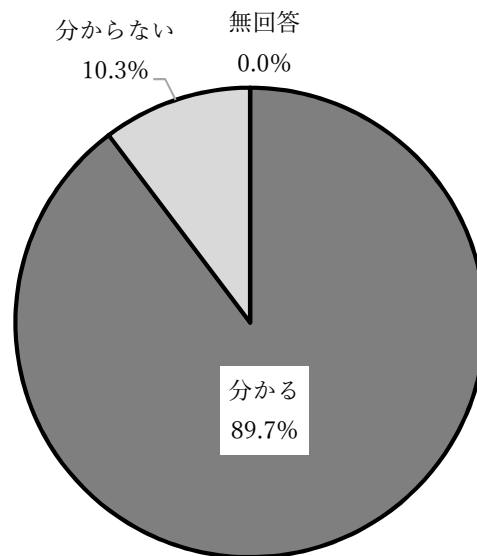
どのような状態がより激しくなったかについては、「大声・奇声」（86.8%）が最も多く、次いで「他害行為」（77.9%）、「自傷行為」・「破壊行動」（67.6%）となっている。



(その他) 感覚過敏、強いこだわり

副問16-2 問16で「ある」と答えた方におたずねします。なぜそのような状態になったか、理由は分かりますか。

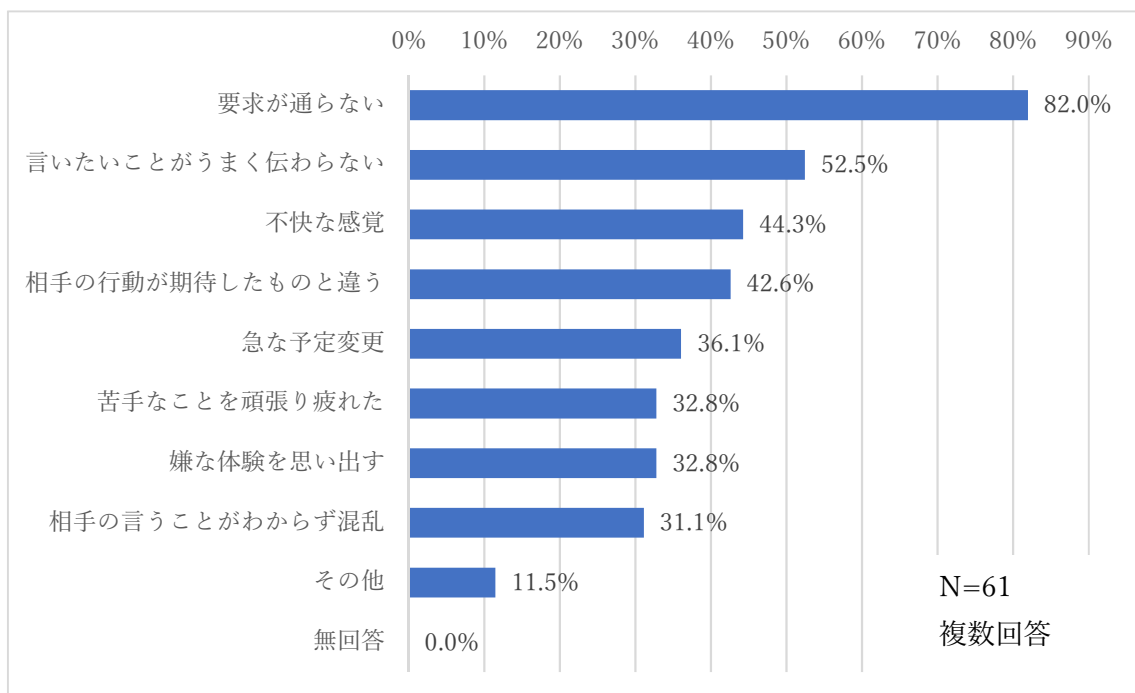
状態が悪化した理由については、「分かる」(89.7%)、「分からない」(10.3%)となっている。



N=68

副問16-2-1 副問16-2で「分かる」と答えた方におたずねします。主な理由は何ですか。当てはまるものを重要なものから3つまで選んでください。

状態が悪化した主な理由については、「要求が通らない」(82.0%)が最も多く、次いで「言いたいことがうまく伝わらない」(52.5%)、「不快な感覚」(44.3%)となっている。

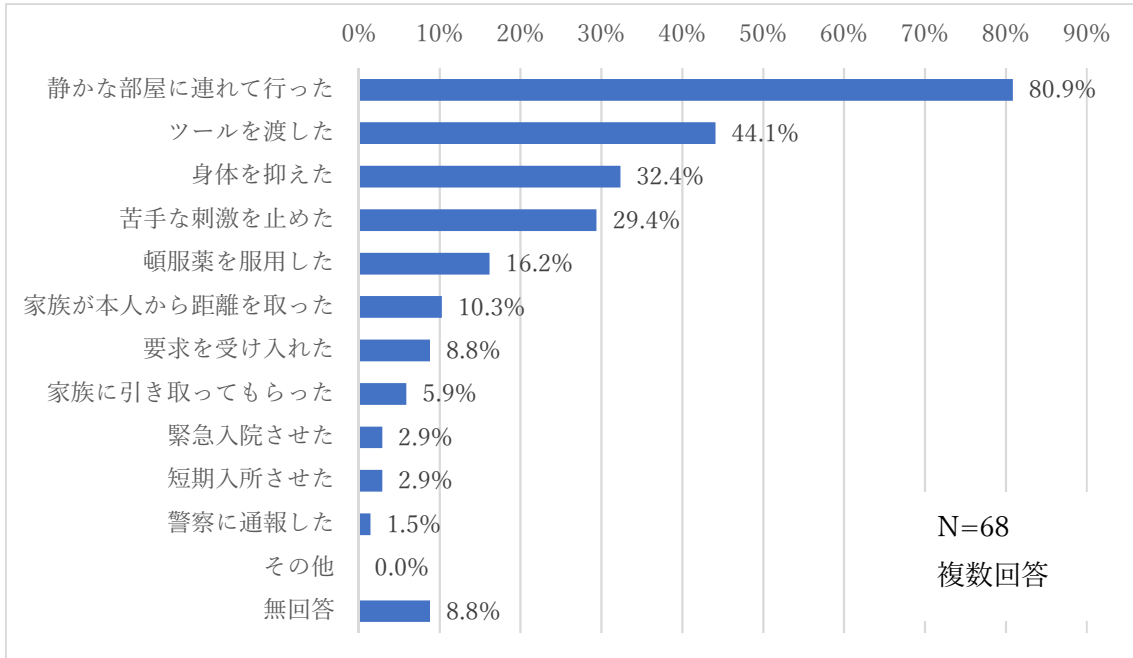


(その他) 強い同一性保持、他者からの刺激、長期的記憶の維持の強さによるパターン化された行動(対応)、本人の表現手段として認識している



副問16-3 問16で「ある」と答えた方におたずねします。ご本人の危機的な状況（パニック）は、どのようにして収まりましたか。当てはまるものを3つまで選んでください。

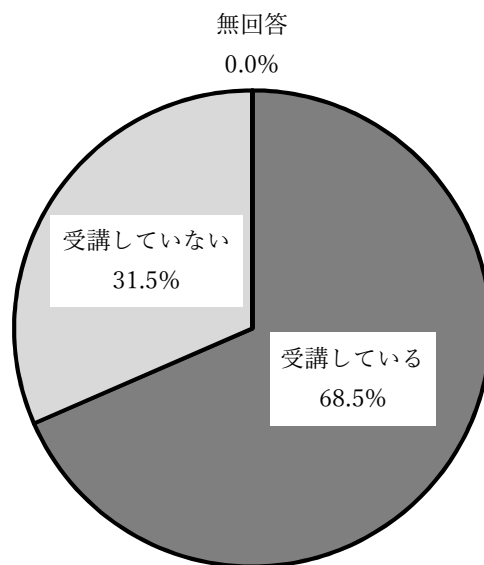
どのようにして収まったかについては、「静かな部屋に連れて行った」(80.9%)が最も多く、次いで「ツールを渡した」(44.1%)、「身体を抑えた」(32.4%)となっている。



【E 強度行動障害のある人への支援について伺います（その③ 人材育成について、今後の方向）】

問17 あなたの部署では、強度行動障害の支援に関する研修を受講していますか。

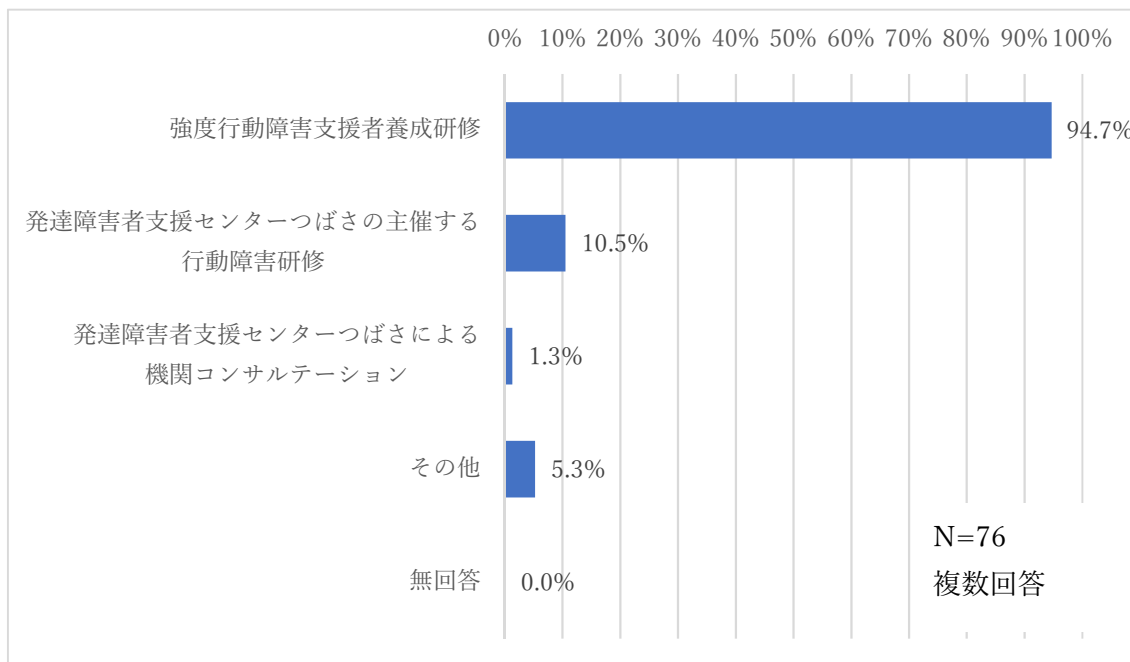
研修を受講しているかについては、「受講している」(68.5%)、「受講していない」(31.5%)となっている。



N=111

副問17-1 問17で「受講している」と答えた方におたずねします。どのような研修を受講されましたか。当てはまるものをすべて選んでください。

どのような研修を受講したかについては、「強度行動障害支援者養成研修」(94.7%)が最も多く、次いで「発達障害者支援センターつばさの主催する行動障害研修」(10.5%)、「発達障害者支援センターつばさによる機関コンサルテーション」(1.3%)となっている。



(その他) 認知行動療法に関する研修、民間で実施されているスタンダードな研修、グループで行っているコンサルテーション、自社研修

問18 強度行動障害のある人を支援するにあたり、どのような体制が必要だと考えますか。特に重要と思われるものを3つまで選んでください。

必要な体制については、「人員増や雇用確保」(64.9%)が最も多く、次いで「複数関係機関と家族の連携の仕組み」(54.1%)、「人材育成研修」(50.5%)となっている。

